

EA935KB - 2仕様

コンクリート・金属ボンド

コンクリートをはじめ、金属、石材、木材などの材料同士又は相互の接着を目的としたエポキシ樹脂系接着剤です。
常温硬化タイプであり、また揺変性もありますので適度の施工性を持ち、しかも硬化後の優れた接着力はもちろん物理的、化学的特性も優秀で、その応用範囲も広く、土木建築分野や、その他多用途の接着工法に利用できます。

用途

コンクリート、金属、石材、木材、硬質プラスチックなどの接着。
但し、ポリエチレン、ポリプロピレン、フッ素樹脂、シリコン樹脂などは接着できません。
車止めブロック、ブロック塀、カサ木などの強力固定

特長

強力接着

接着強度が高く、コンクリート同士では材質強度を上回り、鋼同士でも優れた接着強度があります。

湿潤面接着

湿潤面に対しても接着可能です。

化学的性質

耐水性、耐薬品性、耐油性、耐候性に優れた性質をもっています。

充填接着が可能

100%硬化樹脂のため、硬化後の肉やせがほとんどありません。

常温硬化型

主剤・硬化剤の混合後、常温で化学反応を起こし約1日で硬化します。

作業性

主剤・硬化剤の混合割合は等量(1:1)で、揺変性をもつので、混合塗布作業が容易です。

性状

項目\品名	主剤	硬化剤
主成分	変性エポキシ樹脂	ポリアミドアミン
外観	乳白色ペースト	緑褐色ペースト
粘度	100000 ± 20000mPa·s(25)	150000 ± 30000mPa·s(25)
比重(20)	1.3 ± 0.1	1.3 ± 0.1
混合比	主剤：硬化剤 = 1：1(質量比)	
可使時間	約50分(20、1kg)	
指触硬化時間	約4時間(20)	

使用法

前処理

接着面はゴミ、ホコリ、油、サビ、離型剤、塗装物、レイトンスなどを取り除いて清浄面にして下さい。

アクリル、硬質塩化ビニル、ABSなどのプラスチックは必ず表面にボンドプライマーを薄く塗布し、乾燥後EA935KB-2で接着して下さい。

金属表面やポリエステル、メラミン、フェノール樹脂は表面をサンドペーパー(#120)やサンドブラストで処理して下さい。

混合

主剤と硬化剤を1:1(質量比)で計量し、十分に混合攪拌して下さい。

可使時間

常温(20)では約50分ですから、必要量ずつ混合し、混合したものはできるだけ早くご使用下さい。

接着作業

塗布はヘラ・クシ目ゴテなどで均一にのばします。塗布量は金属のような平滑面で 500g / m²前後、コンクリートのような粗面で 800g / m²前後が必要です。粗面又は充填接着用には両面に塗布すると効果的です。

養生

前記の可使時間内に塗布し、できるだけ早く貼り合わせ、6時間(20)以上接着物が動かないよう固定し硬化させます。

使用例



外装モザイクタイル接着(ボルト併用)



大理石接着(ボルト併用)



通行区分用コンクリートブロック接着



コンクリート製床板への鋼板接着補強

具体的用途例

- ・ 砂防堰堤の天板ブロック接着。
- ・ 鉄骨梁、PC板、橋脚、橋梁床板への鋼板接着補強。
- ・ 車輛止めブロックの道路面への接着。

注意

主剤と硬化剤を混合したものは次第に硬くなりますから、可使時間内に使い切れる量だけを混合して下さい。

EA935KB-2を皮膚や目につけないようにして下さい。

付着すると体質によってはカブれることもありますので、使用時には、保護クリームの使用やゴム又はポリエチレン製の手袋や保護眼鏡を着用して下さい。皮膚に付着した時は、直ちに乾いた布切れで拭き取り、石鹼水でよく洗って下さい。

万一目に入った時は直ちに多量の水道水でよく洗い流し、医師の診断を受けて下さい。

使用した容器、道具類はEA935KB-2が硬化する前にシンナー類で洗って下さい。

硬化したものはシンナーに溶けませんからご注意下さい。

使用後は容器の蓋を密封して保管して下さい。

作業場所の換気を充分行って下さい。換気の悪い作業場所では必ず強制換気を行って下さい。

容量 2kgセット

技術資料

温度——粘度の関係

単位：mPa・s

温度	10	20	25	30
主剤	350000	150000	100000	80000
硬化剤	350000	250000	200000	150000
混合物	350000	200000	150000	100000

BH型回転粘度計、回転数：10rpm、使用ロータ No.7

可使時間及び指触硬化時間

温度	10	20	30
可使時間	2時間	50分	30分
指触硬化時間	8時間	4時間	2時間

硬化樹脂の経日硬度

単位：H_DD

条件 \ 経日	1日	2日	3日	7日	28日
10	50-20	70-55	78-65	85-82	85-83
20	65-54	80-72	83-77	83-80	84-82
30	72-60	80-75	80-78	81-79	81-79

使用硬度計：ショアー硬度計(Dタイプ)、測定法：最高硬度と10秒後硬度を測定

硬化樹脂の温度による硬度変化

単位：H_DD

温度 主剤 / 硬化剤	10	20	30	40	60	80
10/8	87	85	84	82	80	55
10/10	85	84	83	81	78	45
10/12	84	80	79	78	65	40

硬化条件：20 ± 1 28日

測定法：通風式オープンで10より80まで1時間で昇温し各温での硬度を測定する。

収縮率

\ 経日	1日	3日	7日	28日
収縮率	0.08%	0.16%	0.2%	0.2%

測定法：JIS-K-6911に準拠。

機械的強度(物性)

試験項目	測定値例
圧縮降伏強さ (kgf / cm ²)	450
圧縮弾性係数 (kgf / cm ²)	1.8 × 10 ⁴
引張強さ (kgf / cm ²)	280
曲げ強さ (kgf / cm ²)	400

混合比：主剤 / 硬化剤

硬化条件：20 ± 1 15日

測定温度：20 ± 1

試験方法：圧縮強さ・・・JIS-K-7208に準拠。

引張強さ・・・JIS-K-7113に準拠。

曲げ強さ・・・JIS-K-7203に準拠。

硬化樹脂の吸水率

経日 主剤 / 硬化剤	7日	28日
10/8	0.91%	1.66%
10/10	0.94%	1.84%
10/10	1.21%	2.40%

供試体形状：直径 50 × 高さ 30mm (円盤)

硬化条件：20 ± 1 7日

浸漬条件：20 ± 1 上水道水

* ここに記載しました技術資料・標準処方例は、試験・研究に基づいたもので、信頼しうるものと考えますが、材料・使用条件によりかなり相違する場合がありますので、需要家各位で十分に試験・検討の上ご使用下さいますようお願い致します。